

患者を救えなかった元カウンセラーが、
ARキヤラの願いを叶える

キル

作・ほら

登場人物

さくら (32) 元カウンセラー。
カゲロウ (?) ARキャラクター。

タケル (33) さくらの同僚。

おじいさん (80代) 大昔の子役。

おじいさん (子役時代) ※写真のみ

ハサミ女 (40代) さくらの元患者

警察

登山客

1. カウンセリングルーム・夜

ビルの1階、廊下の奥。「さくらこころセラピー」と書かれたガラス窓が割られている。赤いランプがまわり、警報音が鳴っている。

2. 同・奥の問診室

問診室のデスクはぐちゃぐちゃである。書類には血が飛んでいる。
IDを首から下げた女性・さくら(30)が、部屋の隅で首をおさえながら震えあがっている。さくらの首からは血が流れている。

さくら「ごめんなさい、ごめんなさい…」

さくらの前に立っているのは、血のついた鋭いハサミを持った、髪の毛の長い女(40代)。上下スウェットで、乱れている。

女「あなたのせいよ…あなたがあのとき死なせてくれなかったから」

女はさくらに向かってハサミを振りかぶるが、間一髪警察が駆けつけて女を止める。

3. 数年後・IT会社オフィス

首に傷跡のあるさくらがデスクで、イヤホンをつけて黙々と仕事をしている。
タケル「さくらさん」

さくらの肩を叩いたのは、Tシャツに短パンでいかにもクリエイター風の同僚・タケル(33)だ。

さくら「はい」
タケル「さくらさんって、元カウンセラーで
しょ。ちよっとお願いがあつて」
タケルはさくらを手招きする。

4. 同・会議室

さくらが椅子に座って、フライトゴー
グルのようなものをかけさせている。
タケルは向かいでタブレットの電源を
入れる。テーブルのマイクドロローン
が飛び、人間の目の高さでホバリング。
さくらの視界にARでOSが立ち上が
る。ポップアップで、Bluetoothリン
クを求められる。

タケル「リンクして」

さくらがOKボタンを押すと、目の前
に和装のサムライが現れる。ARサム
ライの顔と重なるように、マイクドロ
ローンが飛ぶ。ドロローンには小さなカ
メラがついている。

さくら「わっ」

サムライは刀を抜いて、まわりを警戒
する構え。タケルとさくらを睨みつけ
る。サムライの顔の角度に合わせ、ド
ローンも動く。

サムライ「おい！ここはどこだ！彦丸をどこ
へやった！」

さくらは思わずゴーグルを外す。当然、
サムライも消える。ドロローンは部屋中
を飛び回っている。さくらは過呼吸気
味。

さくら「はあ、はあ：なんですかこれ、新し
いキヤラですか」

タケル「そう。ほら、こないだフィルムが見
つかった昔の時代劇あるじゃないですか」

さくら「ああ：未完成のやつ」

タケル「そうそう、その主人公よ。カゲロ

ウっていうんだけど。あの映画著作権切れてるみたいだからさ、つくってみたのよ人格を。でもなんていうか、うまく教育できなくて」

さくら「教育：？」

タケル「自律してから、言うこと聞かないんだよね。命令が入れらんなくて。まだ映画の設定の中に生きてんのよ」

さくらはおそろおそろまたゴーグルをかけてみる。カゲロウは鼻息荒く歩き回っている。ゴーグルをかけたさくらに気づき、

カゲロウ「おい、女！」

迫ってくる。当然、マイクロドローンも物理的に近づいてくる。さくらは思わずマイクロドローンを叩き落とす。マイクロドローン、床に落ちて動かなくなる。

さくら「ごめんなさい：」

タケル、ドローンを拾いつつ

タケル「大丈夫、頑丈だからこれ」

さくら「やっぱ無理です、教育とか」

さくらは会議室を出ていこうとするが、タケルに止められる。

タケル「待って待って、さくらさんにしか頼めないんだよ、お願い」

さくら「技術部で解決することでしょう」

タケル「命令じゃなくて、対話で解決してみたいんだよ。いざれ模造人格を商品化するなら、大事なステップだと思わない？」

さくら「カウンセリングは、もうしないの」

タケル「でも、さくらさんに紐付けちゃった」

さくら「え：NFTなんですかこれ」

タケル「そ。捨てないでね、本体これで、世界にひとつだから」

タケルはさくらの手をとってタブレットを持たせると、会議室から出ていく。取り残されたさくら。

さくら「最悪：」

さくらがリビングに立っている。手元にはタブレット。テーブルにはマイクロドローン。深呼吸して：額にホールドしたゴーグルを目までおろし、装着。マイクロドローンが飛び上がり、ARカゲロウがあらわれる。ARカゲロウは、さくらをじっと見つめている。

カゲロウ「恐れ入った」

さくら「は？」

カゲロウ「張り手で倒されるとは、不覚」

さくら「ああ、さっきの：」

カゲロウ「お主、相当の達人とみた。折り入って頼みがある」

さくら「ま、まあ、座ってください」

さくらも座る。マイクロドローンが高度を調整し、合わせてカゲロウも座ろうとするが、当然椅子がひけない。

さくらが立ち上がり、椅子をひいてあげる。カゲロウは座ろうとするが、椅子をすり抜けて尻もちをつく。

さくら「なるほどね：」

カゲロウ「：終始、こんなんだ。なんなんだ、

おれは幽霊にでもなったのか？」

さくら「うーん、ちよつと長くなるな」

× × ×

さくらとARカゲロウ、床にあぐらで向かい合って話し込む。

さくら「そう。ちよつとそこで、フィルムは終わってるの」

カゲロウは手元の似顔絵（これもAR）をさくらに見せる。

少年の顔が描かれている。うまい。それを見たさくら、思わずつぶやく。

さくら「うまいね！」
カゲロウ「息子はいまも富士のてっぺんで、おれの助けを待ってるかもしれない」
さくら「だから、あなたが息子を助けられたかどうかは、現時点ではわからないのよ。フィルムが見つかってないんだもん」
カゲロウ「うむむ：さくら殿。わけのわからないことを言ってるので、とにかくおれを富士山まで連れて行ってくれよ」
さくら「行って、どうするのよ」
カゲロウ「息子を：彦丸を、助ける。さらった山賊を、たたっ切る」
さくら「だから、富士山に行ってもいないんだって」
カゲロウ「じゃあどうすればいいのだ！」
さくら「考え込む。そして思いつく。スマホで何か検索しはじめる。」

6. おじいさんの家・客間

さくらが、おじいさん(80代)にゴーグルをつけてあげる。
さくら「すいません、突然押しかけてこんなおじいさん「いやいや、とんでもな：おお！」
さくら「見えてます？」
おじいさんの視界に、カゲロウがいる。
おじいさん、涙を浮かべる。
おじいさん「三澤さん：！」
カゲロウ「三澤じゃない、カゲロウだ」
おじいさん「お嬢さん、その写真を」
さくら、棚に飾った写真を持ってくる。
それは、撮影所での記念写真。
カゲロウと同じ姿をした俳優・三澤が小さな男の子を抱いて映っている、古い白黒写真だ。おじいさんは写真をカゲロウに見せる。
カゲロウ「彦丸！」

おじいさん「私です。こんな、じいさまにな
ってしまいました」

7. おじいさんの家・玄関(夕方)

さくらを見送りながら、おじいさんが
古い台本を渡してくる。

さくら「これ：」

おじいさん「結末を、彼に話すかはおまかせ
します」

8. 電車(日暮れ)

さくらが、もらった台本を読んでいる。
最後のページを読んで、動揺し、閉じ
る。あたりを見回して、電車から降り
る。

9. ビジネスホテル(夜)

さくらが台本を手に、A Rカゲロウと
あぐらで対面し話している。

カゲロウ「息子が：元からないだど？」

さくら「そう。全部あなたの妄想。そういう
結末」

カゲロウ「では、これは」

カゲロウ、手元の息子の似顔絵を見る。

さくら「それは小さい頃のあなた。さらわれ
たのは、あなた」

カゲロウ「そんな：そんなこと」

さくら「残酷な脚本だと思うよ。でも、そう
なの。事実なの。まあフィクションだから、
事実とも言えないけど：」

カゲロウ「おれはどうすればいいのだ」

さくら「…どうしたい？気が済むまで、付き合うよ」
カゲロウ「…富士山だ。のぼって、本当に息子がいなければ…」
さくら「気が済む？」
カゲロウ「わからない…」
さくら「でもそう言うと思ったよ。明日、行く。だからここで降りて泊まってるの」

10. 富士山頂(翌日・昼)

見事な景色の端っこ、登山客の中に、カゲロウが佇んでいる。
カゲロウ「その、脚本とやらでは、おれは何をするんだ、ここで」
さくら「山賊を切って、息子がいないことを知って…その…」
カゲロウ「切腹か」
さくら「そうね」
カゲロウ「しかし、おれは…」
さくら「手伝おうか」
カゲロウ「？」
さくら「私が山賊やってあげる。私を切りなよ。そのあと…」
カゲロウ「しかしおれは、この通り」
さくら「切腹ができないなら、私が葬ってあげる」

× × ×

カゲロウの視点。さくらの姿が、山賊の姿に変わる。さくらが台本を見ながらなので、山賊も不自然な手の動きをしながら、カゲロウに向かって叫ぶ。
さくら「お前に息子なんかいねえ！みんな知ってるよ！みんなお前のうわごと、付き合ってくれてただけだ！優しいよな！え？サムライくずれさんよ！お前はな、父親で

も、サムライでもねえんだよ！」

カゲロウ「黙れ：黙れ！」

カゲロウは、山賊姿のさくらの首に思い切り刀を振る。さくら、閉じていた目を開く。

さくらの脳裏に、冒頭のハサミを持った女の顔が蘇る。泣いている。

カゲロウの刀は当然、さくらの首をすり抜ける。

さくら「：どう？気は済んだ？」

カゲロウは答えない。無操作中のゲームキャラのように、その場でバウンスしている。

11. さくらの部屋(後日)

タケルとテレカンしているさくら。

タケル「ねー、教えてよ。どうやって解決したのか。会話のログ入れなくて」

さくら「いいでしょ、命令できるようになった

んだから。もう切るよ」

テレカンを終了。

さくら、立ち上がり冷蔵庫に向かう途中、プリンタのキューランプがついているのに気づく。

「用紙がありません」と表示されている。

× × ×

プリント紙を買って帰ってきたさくら、紙をセットしてプリント開始ボタンを押す。

プリンタから出てきたのは、さくらの似顔絵。カゲロウの絵柄である。

首の傷もしっかり描かれているが、絵

の中はさくらは笑顔である。
さくらは壁にその絵を貼り、窓の外を
見る。高層階のそこから見える景色。
遠くには、富士山が見える。

終